

大鹿村中央構造線博物館たより 157号



6月30日まで博物館休館中！

2022年6月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

中央構造線沿いに聖地が並んでいるってホント？

昨今のパワースポットブームなどの影響もあるのか、中央構造線に沿って、石鎚山、伊勢神宮、豊川稲荷、諏訪大社、鹿島神宮と、神社仏閣＝聖地が並んでいるという情報がネット上などに散見されます。これは本当なのかどうか、ここで検証していくことにいたします。

日本列島の大地は、日本列島がまだアジア大陸にあったときにできた土台となる岩石と、列島となった後に堆積した地層や、列島となった後にできた火成岩からできています。土台となる岩石は、そのでき方や、できた時代ごとにグループ分けされており、それぞれのグループの岩石が分布している地域を「〇〇帯」という名前で呼びます。中央構造線は「領家変成帯」と「三波川変成帯」の境界となる断層です。「領家変成帯」には、領家花崗岩と領家変成岩が分布しています。また「三波川変成帯」には、三波川変成岩が分布しています。これらのことを前提に、地質図を参照しつつ、各聖地が中央構造線上にあるのか否か検証していきます。

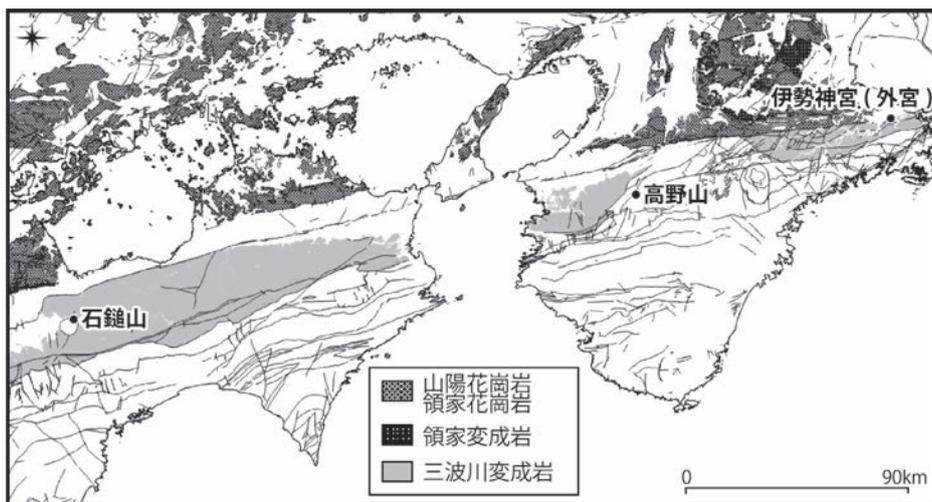


図1 各聖地の位置と地質の関係（四国・紀伊半島）

※産総研シームレス地質図V1基本版を元に作成。

※山陽花崗岩は、領家花崗岩より日本海側に分布する花崗岩類で、領家変成帯に分布する岩石ではありませんが、山陽花崗岩と領家花崗岩の区別がつきにくいため、ここでは同じ凡例にしています。

1) 石鎚山

石鎚山のあるところは、火山の噴出物で覆われているため、図1では白色になっていますが、その周囲は広く三波川変成岩が分布していることから、火山噴出物の下には、三波川変成岩が隠れていると考えられます。「領家変成帯」と「三波川変成帯」の境界、つまり中央構造線のある位置は、石鎚山より10km以上北方と思われるため、石鎚山が中央構造線上とするのは、無理があるように思います。

2) 高野山

高野山のある場所は、図1では白色になっていますが、ここは、「領家変成帯」でも「三波川変成帯」でもなく、「四万十帯」になります。そのため、中央構造線上にあるというの

は無理があるように思います。

3) 伊勢神宮（外宮）

伊勢神宮外宮は、図1のちょうど三波川変成岩の分布域の北端あたりになり、実際に外宮敷地内の南側に三波川変成岩が露出しています。当館の河本顧問が共著者となっている研究論文（*1）では、中央構造線が伊勢神宮外宮の敷地内を通過していると想定できると結論づけられており、伊勢神宮は中央構造線上にあると言って良さそうです。

4) 豊川稲荷

豊川稲荷を有する豊橋平野は、新しい堆積物で覆われているため、図2では広く白色になっていますが、豊橋平野の北西に領家変成岩や領家花崗岩、南東に三波川変成岩が分布していることから、中央構造線は、豊橋平野の下のどこかを通過しているといえそうです。産総研シームレス地質図を参照すると、豊川稲荷から900mほど南東に中央構造線の推定位置が点線で示されていることから、豊川稲荷は中央構造線の近くに位置しているものの、中央構造線上とまでは言えないように思われます。

5) 諏訪大社（上社前宮）

諏訪大社（上社前宮）の、少し南南西の地点では、領家変成岩、領家花崗岩、三波川変成岩が地表に露出しており、その境界断層である中央構造線が北北東—南南西方向に伸びています。そのため、中央構造線は、諏訪大社の近くを通過している可能性はありそうです。しかしながら、諏訪大社周辺は、新しい堆積物に覆われているため、図2では白色となっており、中央構造線の正確な位置はわかっていません。中央構造線上にあるかどうかは未解明と言うのが良さそうです。

6) 鹿島神宮

図2を見ると、関東平野はほぼ白色になっています。関東平野は新しい堆積物で厚く覆われており、日本列島の土台となるような古い岩石は地下深いところに埋もれてしまっています。埼玉県さいたま市岩槻（いわつき）区の地下約3,500mのところ、中央構造線に沿って分布している領家花崗岩が断層によって変成した岩石＝マイロナイトが見つかったため、中央構造線が岩槻を通過していることが分かっていますが、それより東側では、どこに続いているのか、研究者によって見解がバラバラです。そのため、鹿島神宮が中央構造線上にあるかどうか未解明と言うのが良さそうです。

このように見てくると、中央構造線上にあるとはっきりしているのは伊勢神宮（外宮）だけで、石鎚山、高野山などは、中央構造線上にはないといえることが分かりました。（宮崎）

(*1) 鈴木ほか（2015） 西南日本、伊勢地域の中央構造線の位置の決定 地学雑誌 124(4) 587-605

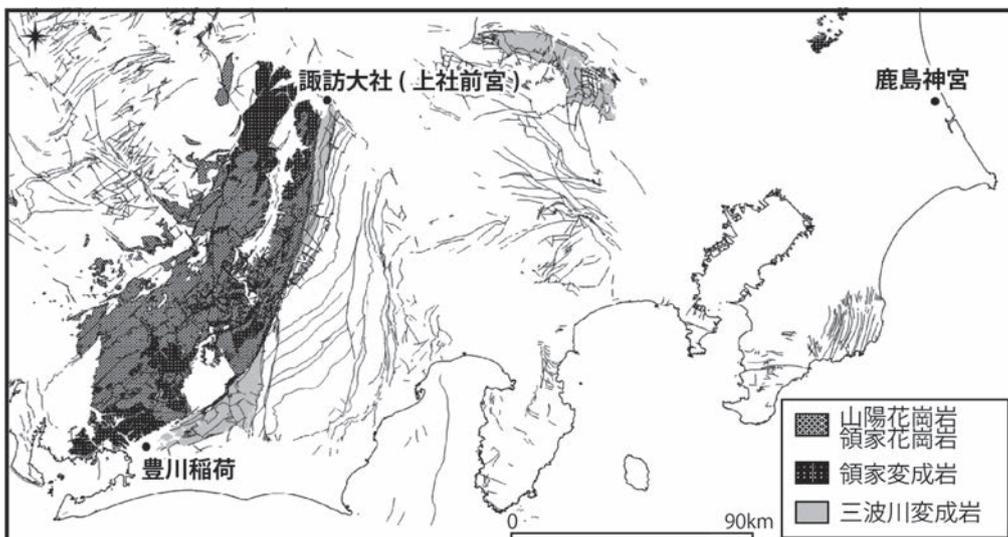


図2 各聖地の位置と地質の関係2（中部・関東）